

秋～春の除草剤

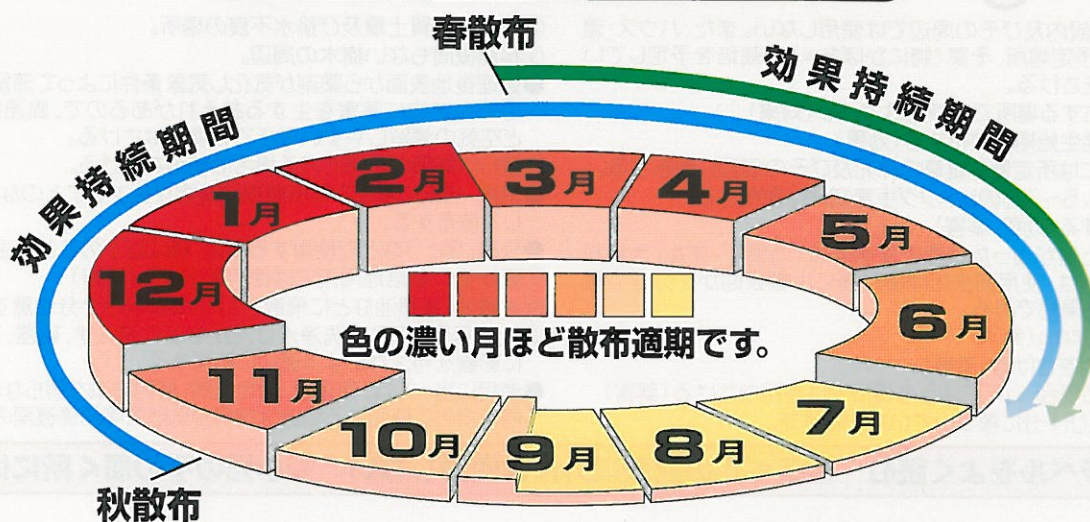
カペリン[®] 粒剤 2.5

特長

- そのまま簡単に散布できる粒剤です。
- 扱いやすい普通物です。
- 庭木の周辺・日本芝にも安心して使用できます。
- 秋から春に散布すると、初夏まで雑草を抑えます。



カペリン効果持続期間



※12月～2月の散布は、もっとも安定した効果があります。

※天候及び土壌条件などにより、多少効果持続期間が異なります。

カペレン® 粒剤2.5は

雑草を根から枯らし、 長い間雑草が生えません。

農林水産省登録第17159号
成分：DBN…2.5%
安全性：毒物・劇物に該当しない（普通物）

■適用および使用方法

*本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	適用 土壌	10アール当り 使用量	総使用回数*		使用方法
						本剤	DBN	
芝 (日本芝)	—	一年生雑草 多年生広葉雑草	秋期雑草発生前 ～発生始期	壤土～ 埴土	8～10kg (1m ² 当り8～10g)	2回以内		全面土壌布 散
		ヒメクグ	ヒメクグ 生育初期		10～15kg (1m ² 当り10～15g)			
樹木等	公園・庭園・ 堤防・駐車場・ 運動場・住宅の り面等	一年生雑草	雑草発生前 ～発生始期	—	17～20kg (1m ² 当り17～20g)	3回以内		植栽地を 除く樹木等 の周辺地に 全面土壌布 散
		多年生広葉雑草 スギナ			20～40kg (1m ² 当り20～40g)			

《上手な使い方》

- 秋冬期及び雑草が発芽しはじめる早春の時期が使用の最適期です。
- 積雪地帯では10月から根雪までに使用するのが効果的です。
- 気温が低く、雨・雪などにより土が湿っている時に使うのが上手な使い方です。
- スズメノカタビラ・タンポポや一年生雑草には冬、スギナなど多年生雑草には梅雨前までの散布できれいにできます。

散布量のめやす：カメラに使う35mmフィルムの容器（直径3cm、高さ5cmぐらい）一杯で約20gです。

効く雑草：アカザ・ツユクサ・ギシギシ・ハコベ・スベリヒユ・タンポポ・スズメノカタビラ・スギナ・チドメグサ・スズメノテッポウ・ヤブガラシ・エノコログサ・ヨモギ・オオバコなどの一年生雑草（タネでふえる草）や、多年生広葉雑草

効きにくい雑草：ススキ・チガヤなどのイネ科雑草や、クローバー・カラスノエンドウなどのマメ科雑草

株元への使用をさける樹木：マツ類、モミ類、モクセイ類、ニワウメ、ヒノキ、イチジク、コウヤマキ、アジサイ、サングジュ、ブーゲンビリア など

⚠ 使用上の注意

- ハウス・温室等施設内及びその周辺では使用しない。また、ハウス・温室等施設の設置予定場所、そ菜（特にかぼちゃ）の栽培を予定している場所では使用をさける。
- イネ科雑草が優占する場所での使用はさける（効果）
- 雑草発生前から発生始期に散布する（効果）
- 多年生広葉雑草には所定量を雑草の株元及びその周辺に散布する。
- ヒメクグ防除には、5～7月のヒメクグ生育初期に散布する。
- 均一散布に留意する（効果・薬害）
- 雨上がりなどの土壌が湿った状態で使用する（効果） また、土壌が乾燥している場合は、使用前または使用後に土壌表面が十分湿る程度に散水すると効果的である。
- 西洋芝には使用しない（薬害）
- 高温乾燥時は使用をさける（薬害）
- 日本芝に使用する場合、以下のような場所では使用をさける（薬害）
- ①芝張り1年以内及び十分に根づいていない日本芝。
- ②極端な砂質土壌及び排水不良の場所。
- ③移植後間もない樹木の周辺。
- 処理後地表面から薬剤が気化し気象条件によって滞留した場合、周辺の有用植物に薬害を生ずるおそれがあるので、風通しの悪い凹地など空気の滞留しやすい場所での使用はさける。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。
- 飛散・流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布する。
- 公園、堤とうなどで使用する場合、特に以下のことに注意する。
- ①農作物の栽培地周辺では使用をさける（薬害）
- ②水源池、養殖池などに飛散、流入しないよう十分注意する。
- ③散布器具、容器の洗浄水は河川などに流さず、容器、空袋などは環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。

●使用前にラベルをよく読む ●ラベルの記載以外には使用しない ●小児の手の届く所には置かない



アグロ カネショウ株式会社

東京都港区赤坂4-2-19